年頭に当たって

～新たな百年に向けて～

医学部長　木下　浩作

新春を迎え，皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。また，これまでも日本大学医学部の教育･研究･高度医療に多大なる御理解と御支援を賜り，心より御礼申し上げます。

2025 年 3 月 , 本学医学部は創設 100 周年という大きな節目を迎えました。10 月 26 日にオークラ東京で開催いたしました記念式典には，全国から多くの同窓の皆様，日本大学各学部の代表，歴代の教職員の方々にご臨席を賜りましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。あいにくの雨模様ではございましたが，祝賀会では皆様とともに杯を上げ，百年の歩みを祝するひとときを共有することができました（写真左から斎藤忠則　日本大学医学部同窓会副会長，大貫進一郎　日本大学学長，林真理子　日本大学理事長，木下浩作（筆者），吉村利明　日本大学医学部事務局長)。医学部のアンサンブル部による演奏や，教職員が手づくりした記念動画や,「医学部百年史」の編纂成果など,「日本大学医学部らしい行事であった」と多くの御評価をいただきました。百年の歩みを支えてこられたすべての方々に，改めて深く感謝申し上げます。

この 100 周年を次の成長への出発点と位置づけ, 板橋キャンパスでは「新たな百年」に向けた再整備計画が具体化しています。本年 4 月には新看護専門学校が本格的に稼働し，看護教育の拠点が刷新されます。体育館もその役割を終え，新学部棟建設に向けた準備が進み，令和 11 年度からの学生受け入れを目標に教育・研究機能を集約し，学部内外の交流を生み出す空間設計を導入する予定です。

新病院についても基本計画が終了し，特定機能病院としての役割をより強固にする取り組みが進行中です。新病院では DX 化を全面的に推進し，多職種が有機的に連携する高度急性期医療，こどもから妊産婦・高齢者までを包括する救命医療，そして地域医療の最後の砦としての役割をより強化することを目指します。これらは社会の医療ニーズが複層化し，医療・介護・福祉の一体運営が求められるこれからの時代に不可欠な機能です。

今回の再整備における大きな要点は，学部間連携による「集合知の創出」です。新学部棟・新病院棟は，日本大学全体の叡智を結集し得る「全学教育･研究拠点」として機能･運営していきます。これは，医学・歯学・薬学・看護学のみならず，日本大学 16 学部の幅広い学術領域との協働を前提とした構想です。AI・データサイエンス，メディカル・エンジニアリング，健康長寿の科学など，学際領域の拡大が世界的潮流となる中，単一分野のみでは社会課題に応えられない時代を迎えています。医学部は，こうした変化を先取りし，学内外の叡智を束ねる結節点としての役割を果たします。

医療面においても，これからも地域医療機関や行政との多層的な連携を一層深化させ，災害医療・救急医療・周産期医療などの重要課題に積極的に貢献していきます。とりわけ高齢化が進む地域社会において，医療ニーズは複雑化の一途をたどっています。本学は，地域に根ざした大学病院としての使命を重く受け止め,「地域医療への恩返し」を実現できる体制整備を推し進めます。

新たな百年に向けて必要なのは，変革を恐れず挑戦を続ける姿勢です。医学部の発展は，同窓生の皆様，地域社会，そして日本大学全学の多くの支えのもとに成り立っています。これまでの百年を礎に, さらなる成長と飛躍をするべく，引き続き，教育・研究・高度医療の各分野における御理解と御支援を心よりお願い申し上げます。

結びに，本年が皆様にとって実り多き一年となりますことを祈念申し上げるとともに，日本大学医学部が次の百年に向けて一層発展できますよう，教職員一同全力を尽くす決意です。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

年頭に当たって

～挑戦と飛躍～

事務局長　吉村　利明

年頭にあたり，謹んで新年のお慶びを申し上げます。医学部並びに附属病院の教職員の皆様におかれましては，健やかに新春をお迎えになったことと拝察いたします。また，学生の皆さん，御父母の皆様，そして同窓生の皆様におかれましても，希望に満ちた新年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

日頃より本学医学部及び附属病院の教育・研究・診療活動に御理解, 御協力, そして御支援を賜っておりますことに，厚く御礼申し上げます。

振り返りますと，昨年は本学医学部にとりまして大きな節目の年でありました。大正 14 年（1925 年）3 月に日本大学専門部医学科が開設されて以来，100 年の歴史を刻み，昨年 10 月には創設 100 周年記念式典・祝賀会を都内にて盛大に挙行することができました。これまでの歩みを支えてくださった多くの先達，そして現在に至るまで本学を支えてくださる教職員，学生，卒業生，関係者の皆様に，改めて心より深く敬意を表すとともに感謝申し上げる次第です。

また，昨年 2 月には附属看護専門学校新校舎の地鎮祭を執り行い，板橋キャンパス整備事業が本格的に始動いたしました。令和 17 年度の事業完了を目指すこの取り組みは，教育・研究・診療の環境をさらに充実させるものであり，未来を見据えたキャンパスは，次世代の医療人材育成に大きな礎を築くものと確信しております。

一方，社会情勢や経済環境の変化は，大学・病院運営においても財務の健全性を一層強く求めております。昨年は，収支改善に向けた取り組みが一定の成果を上げ，外部借入金に依存しない予算執行を実現できる見通しとなりました。これは教職員の皆様の不断の努力と協力の賜物であり，教職員一人ひとりの御尽力と工夫の積み重ねによる成果でございます。心より感謝申し上げ，深く敬意を表するものであります。今後も持続可能な経営体制を確立し，次世代に誇れる大学・病院づくりを進めるためには，引き続き教職員全員が一丸となった取り組みが不可欠です。皆様と共に歩みを進めてまいりたいと存じます。

さらに，新病院建設計画につきましても，スマートホスピタルなど未来志向の医療拠点として着実に準備を進めております。医療技術の進展や患者ニーズの多様化に応えるためには，施設の充実のみならず，組織文化の改革・改善が求められます。新病院の完成を待つまでもなく，現状の体制をより強固なものとし，教育・研究・診療の三本柱を一層充実させることが肝要であります。

本年は「挑戦と飛躍」の年と位置づけ，従来の枠にとらわれない柔軟な発想と果敢な行動をもって，次世代に誇れる医学部・病院を築いてまいりましょう。これらの取り組みを実現するためには，教職員の皆様の知恵と力が欠かせません。日々の業務においては困難や課題も多いかと存じますが，それらを乗り越える過程こそが組織の成長につながると信じております。互いに支え合い, 協力し合いながら, 共に未来を切り拓いてまいりたいと存じます。

結びに，令和 8 年が医学部並びに附属病院にとりまして実りある一年となりますことを祈念するとともに，教職員の皆様，関係者の皆様にとっても健康で充実した一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もなお一層の御理解，御協力，御支援を賜りますようお願い申し上げ，年頭の御挨拶といたします。